

ヤーハ

ハレルー

הללוּ-יְהוָה

●詩篇の最後は第 150 篇、その最後の節に上記の「ハレルヤ」があります。旧約では 24 回使われています。ヘブル語で「ハレルヤ」は二つの語彙から成り立っています。一つは動詞「ハールル」(הלל)の命令形ピエル態複数形で「ほめたたえよ」の意味。もう一つは固有名詞の神聖四文字の【יהוה】の短縮形「ヤーハ」(יה)です。「ヘー」(ה)の文字が語尾に母音記号なしで置かれるとき、通常、無音となりますが、完全な子音としての資格をも持つ場合には激音を伴った有音とします。そのとき、「マツピーク」と呼ばれる点を文字の真ん中に打ちます。ですから、読むときには「ハレルー・ヤーハ」(アクセントは太文字の部分)となります。これを一般に「ハレルヤ」と表記しているのです。

●「ハレルヤ」のヘブル語表記にあるさまざまな記号を説明すると、以下のようになります。

(1) 母音記号・・・ここでは三つの母音記号が使われています。し

- ①「カメツ、あるいはカマツ」(アの長母音)
- ②「パタハ」(アの短母音)
- ③「シューレフ」(ウの長母音)

(2) 「シェヴァ」(שׁוּׁ)・・・シェヴァは母音がないことを意味します。

しかし、この記号が語彙の頭にある時は有音シェヴァと言って、その場合は「エ」と発音します。

冒頭でないところにシェヴァが置かれる場合には、無音シェヴァと言って、子音で終わっていると見なします。その場合、ו が「ヴ」と発音し、י は「グ」と発音するようにです。ただし、「ハレルヤ」のシェヴァは、本来は無音ですが、ラーメド(ל)の文字が重ねられているために、有音シェヴァとして発音されます。つまり、「ハレルルー」ではなく、「ハレルルー」となります。

(3) 「マケフ」(正規には「マツケーフ」קָפֶּה)・・・ハイフーンのような形をしています。「結び」を意味する「マツケーフ」で由来し、二つ以上の短い語彙が密接な関係にあるときに、この記号で連結されます。二つの語彙をつなげる役目をしています。読むときにも一気に読みます。

(4) マツピーク・・・文字の真ん中にマツピーク(קָמֶץ)と呼ばれる点(「活点」とも呼ばれます)が打たれます。ここでは ה がその例です。これはダゲシュ(強点)とは異なります。